

F-29 週休2日制が家庭生活に及ぼす影響(4) ～ 家族関係

福山女大家政 ○山口久子, 金城学院大短大, 生川浩子, 金城学院大
家政, 今井光映, 岐阜大教育 堀田剛吉, 静岡大教育 村尾勇之

目的, 空間的な家庭生活における生命活動のモメントをなすものは, 家族を構成する人間の生活意識, 価値観であり, そうしたモメントに導かれて現象する具体的な形態は, 家計, 家族関係, 生活技術に関連した行動を通じてもたらされるものと考えられる。そこで, 本報告においては, 特に週休2日制への移行という家政的諸環境の変化の中で, 家族関係はどのような影響を受け, どう変化し, 定着するののかについて調査し, その結果を分析, 研究するものである。

方法, 調査対象, 時期, 調査方法は前報と同じ, 調査用紙の中から, 家族関係についての質問用紙を, タイプ別に, 夫用, 妻用別に類別し, 更に項目別, 学歴別にして集計し分析を行なう。

結果, まず, 休日タイプの特徴として, AタイプとDタイプが比較的相似した傾向を示しているのに対し, Cタイプが, やや特殊な動きを示している。意識・意向関係では, タイプ別, 学歴別に何筹かの相関が見られた。つぎに, 人間性向上の面について見ると, 夫婦関係において, 夫婦間の対話, 共同作業の増大が見られ, 親子関係においても, 親子で, スポーツ, 娯楽, 趣味などを希望するものが多く, 夫婦・親子何れの場合も, 休日の多いタイプ程, その意識・意向が高まっている。また, 家族以外の人との人間関係においても同様, 休日増を人間性向上に志向している。反面, 休日の多いタイプに, 精神的疲労, 家事労働量の増加を指摘するのが夫側に多く, 妻側においては夫のための仕事の増加と, 自主的行動ができなくなったことに対して抵抗的である。